

えんぼとたんぼの始発駅 里山ビオトープ二俣瀬	会 報 第 27 号	2003年10月23日 里山ビオトープ二俣瀬をつくる会 編集責任者：西原 一誠
---------------------------	------------	---

1. 活動報告（事務局 記）

- 9月27日（土）第三回(最終回)山口県環境生活部との協働事業懇談会
- 10月5日（日）本日の作業は、会員約15名で、蓮田、田んぼ等の、草取りを行いました。
- 10月6日（月）原田会員、林 武司会員とで、田んぼにレンゲ種を蒔かれました。
- 10月7日（火）原田会員、林 武司会員とが念願の丸木橋を止水池から蕎麦畑に通じる様にかけられました。
- 10月11日（土）桂谷ランプの宿にて「里山フォーラム」 西原会員、原田事務局長が参加
- 10月15日（水）善和園の皆様（23名）による、今年最後の草刈が行われました。同時に刈草置き場も整理され本当にきれいなビオトープになりました。ご奉仕ありがとうございました。
- 10月18日（土）今日は大変すばらしい秋晴れです。子供も大人も、それぞれ鎌を持ち、黄金色に実ったもち米の収穫を行いました。12月に行われる、餅つきが楽しみです。
- 10月18日（土）今日の里山自然観察隊は、秋の草花をテーマに秋の七草を探して歩きました。隊員13名と保護者6名と会員8名で、ビオトープから新幹線鉄橋までを散策しました。

2. 今後の予定（事務局 記）

見学者

- 11月 1日（土）厚東川水系、森、水、海を考える会80名程度予定
- 12月18日（木）宇部西高等学校 伊藤先生他生徒30名予定

行事

- 11月2日（日）作業（炭焼き用の木の伐採他）
- 11月15日（土）作業（ソバ刈取りと稲コギ）と里山自然観察隊（野鳥の観察）

3. 会員の声

秋の夕暮れ（石井 隆 記）

久しぶりに夕暮れ前のビオトープを訪ねました。途中の道にはコスモスが咲き乱れ、柿も色づき始めています。原田蘭子さんに出会いました。ラッキョ畑で仕事に精を出していました。ラッキョの玉が地表にでると青くなってしまうのでスクモで覆ってやる準備をしているそうです。稲刈り脱穀を終え、今では産業廃棄物にもなってしまったスクモを運んできて、風で飛ばされないようシートで覆っているところでした。一反近い畑にラッキョが丁寧に植えられ、花芽も出始めています。去年までは芋を植えていたが、イノシシが嫌いなラッキョを植えることにしたそうです。「今年はイノシシが多い。ここ数年増えてはいたが今年は何故か特に多い」とのことです。イノシシを捕る人が少なくなったのか、気候のせい、それとも別な理由があるのでしょうか。今年は、お米の作柄が10年ぶりに良くないといわれますがイノシシが食べる山の幸もできが悪くなっているのではないのでしょうか。今とは逆に、昔の里山では里が不作の時、人は奥山まで食べられるものを探しに行っていたのかも知れません。それはともかく、お百姓さんは畑にイノシシが現れ、荒らし回るのには閉口しています。電気柵、植える場所を変更する等チエ比べ、コン比べを続けています。

災いを福に替える手はないでしょうか。ビオトープの回り、二俣瀬のイノシシの通路に捕獲器を設置し、美味しい肉にありつくことはできないでしょうか。今ならイノシシを捕獲し、さばく技術が残っており、これを継承するチャンスにもなるかも知れません。ひょっとして、獅子肉を二俣瀬の名物として売り出すことができるようになるかも知れません。

ビオトープに着くと、田んぼでは刈り取り前の稲穂が頭を垂れ、小さく揺れています。バッタも一緒に揺れています。植え付け後はちょっと元気がなく心配していた田んぼも、地元のプロの皆さんのおかげでどうやら立ち直ったようです。ご苦労様でした。まわりの田んぼの収穫は既に終わり、里山にも秋の深まりが感じられます。ハギの花が咲き終わり、茶色い、小さな鞘が几帳面に並んでいます。先端部はまだできたての緑の小さな鞘です。

花の端境期のビオトープではミゾソバ、イヌタデが陣地取りに励んでいるようです。池ぞいの道を歩いているとカエルがボチャーンと池に飛び込みました。しばらく地面に跡を残して移動していましたが、やわらかい泥の中にもぐり、見えなくなっていました。須賀河内川を越えた草むらからリリーという虫の音がひびいてきます。ビオトープでも透明なチリチリンという虫の音の演奏会の序奏が始まったようです。一人で聞いているのはもったいない気がします。

あちこちに巣を掛け、獲物を狙っているジョロウグモも黄色と黒の縞模様が鮮やかになりました。体も大きく、足はさらに長くなっています。

通路側、草を積み重ねたところに植えられているヤツガシラが青々と大きく育っています。人の背丈よりも高く伸びています。ヤツガシラやサトイモは腐葉土やマルチで覆われるのが大好きなようです。まだ盛んに炭酸同化作用に励んでおり、どんな大きなイモが収穫できるか楽しみです。ハス田のレンコンの葉が枯れてきました。今年は花が少なかったようですが、レンコンの収穫は可能なのでしょうか。

貫禄のついてきた水車が少々くたびれているようです。順逆交互にまわっています。理由は良くは分かりませんが流れる水に勢いが無いのは確かです。水量は弱々しいオシッコのようです。例えが良くないですが、前立腺肥大気味の自分のオシッコの勢いを連想してしまいました。

野良仕事を終えたお百姓さんが帰っていきます。カラスが二羽家路へと急いでいます。暮れ行くピオトープの空を眺めると飛行機雲が山の端から天高く伸びています。西の空は夕焼けです。青い部分、白い雲が少しずつ赤い雲に染まっていきます。茜色に彩られた夕焼け空は刻々と美しい装いを変え、やがてあたりは夕闇につつまれてきました。

4. ピオトープ関連（ピオトープ周辺の植物） 美濃和 信孝

ハギとコマツナギ

ことの発端は、8月26日の納屋さんからのメールでした。ピオトープ内で咲いているハギのような花はコマツナギではないか、というものでした。指摘があるまで、私も木の感じからして、ハギだと思いこんでいましたから、コマツナギではないかという説は納得できませんでした。というのも、私は千葉でコマツナギを見ているが、せいぜい50cmくらい枝を伸ばす匍匐性の草だったからです。ピオトープ内に生えているのは、背丈くらいの高さに株立ちしている灌木で、私のイメージにあるコマツナギとは全く合いません。ところが実物を仔細に見て見ると、葉っぱの数は7枚以上あるし、花穂の感じもコマツナギそのもので、ハギではないことがわかりました。ではこの木はいったい何なのでしょう？

ずっと悩んでいましたが、解決の糸口は原田さんからのメールでした。この木は宇部テクノパークから移植したものだということです。ひょっとしてこれは緑化用の木ではないかと思って調べたところ、ありました！ 緑化用樹種として広く用いられている中国産のコマツナギがまさにこれに該当するのです。小葉は7~11枚、花は総状花序を上向きに付けますが、在来コマツナギと違う点は、2mほどの背丈に株立ちする灌木だということです。

近年、道路の法面などの緑化に、マメ科の低木が多く用いられるようになりました。ヤマハギ、北米原産のイタチハギ、そして中国産コマツナギです。マメ科の植物は根瘤菌がありますから、肥料分の少ない造成地でもよく育ちます。それにコマツナギは、馬をつないでも大丈夫という名前の由来からわかるように、しっかり根を張るので造成地の緑化木としてはもって来いなのです。しかしちょっと待ってもらいたいのは、その地域の生態系に与える影響です。在来種と種的には同じなので、簡単に交雑する危険があります。性質が強いらしく、こぼれ種から次々に新しい木が育っているのも懸念材料です。種が安価に手に入るからといって、中国産の木をあたりかまわず植えるというのはどんなものなのでしょうか。これからは、単に見た目に緑があればいいというのではなく、その緑の質が一番たいせつになってくるのではないかと思います。皆さんはいかがお考えになりますか？



ハギ（マメ科ハギ属）



コマツナギ（マメ科コマツナギ属）

5. ピオトープ関連（連載ピオトープ近辺の案内） 事務局 原田満洲夫

車地八景のその2（寺山の秋月）

中秋の名月で知られる旧暦八月十五日前後の2~3日において現在昭和山と名付けている山南側より上る秋月をほめたものであろう実際今年も桜堤公園（厚東川河川敷）より見た月は大変美しく大正時代に車地八景に取り上げた先人に敬意を表したい。

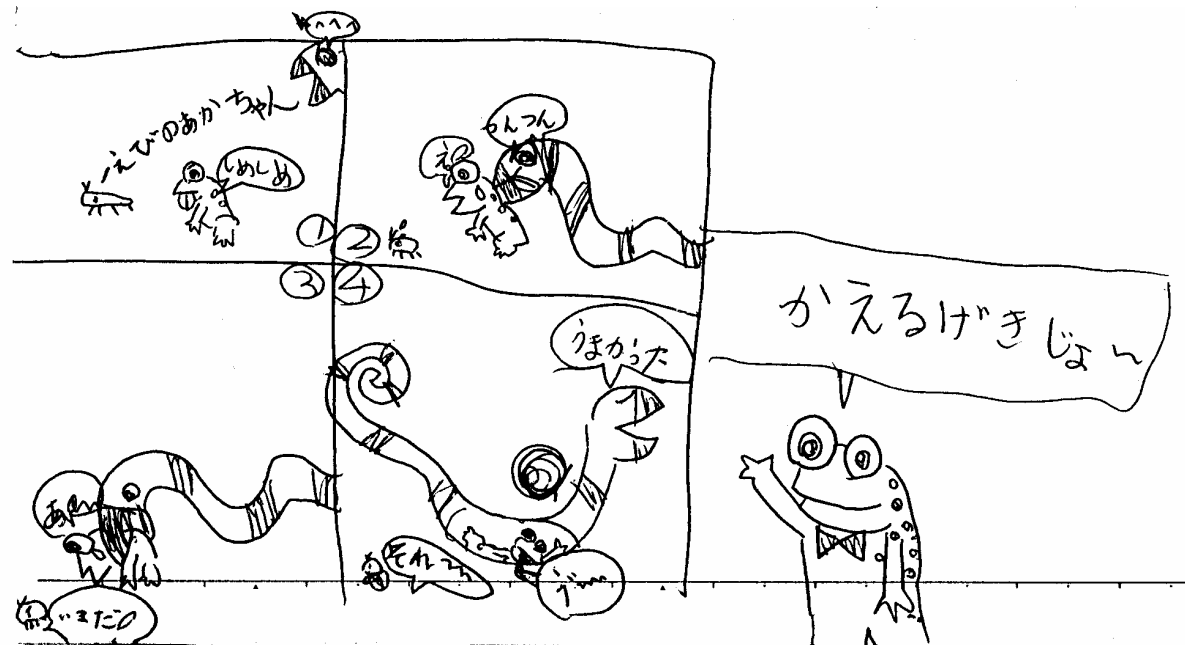
6. 来訪者の声（東屋のノートより一部抜粋）

—9月14日（記載漏れ）小学校1年生のとき社会見学でここにきました。今3年生です。家族で来ました。蓮が浮いていました。こんなから来ましたまた来たいです。 出口嘉一

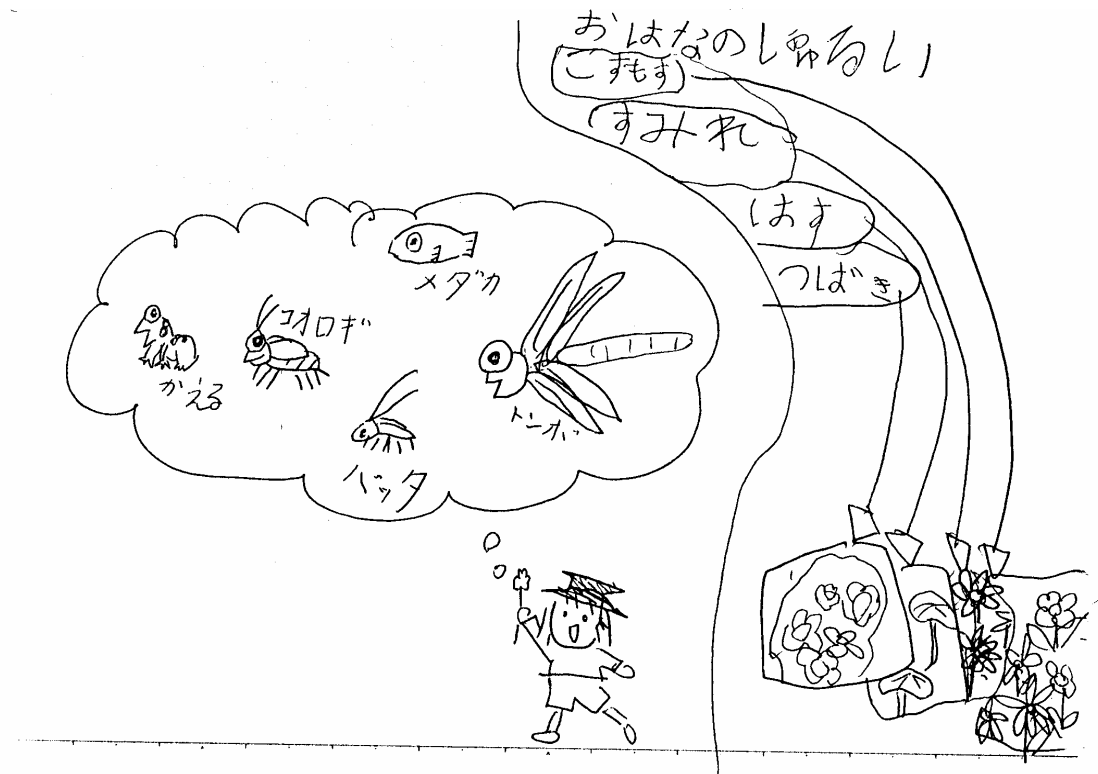
—10月7日女性6人できました。子供の頃を思い出して歩き、とても楽しいひと時でした。また来て見たいです。厚東 渡辺和代

—10月19日始めて来ました。友達と行きました。川の中に入るととっても冷たかったです。めだかもいたし、かえるもいました。自然がいっぱいあるなあと思いました。とてもきれいで緑があるところです。メダカをつかまえようとしたけれど、逃げて

捕まえられませんでした。楽しかったです。 へさかみか子
 (カエル劇場なるマンガを描いてくれました。)



同日 川にめだかがいた。カエルもいた。トンボもいた。こおろぎもいた。バッタもいた。 へさかみか子
 (見つけた昆虫類を絵で描いてくれました。)



(同日 へさかさんの友達で一緒に見学にこられたものと推察される。) とくながまな
 畑があった。川もあった。稲があった。お花がいっぱいあった。お花の種類「コスモス」「すみれ」「はす」「つばき」

7. 会よりの連絡事項

11月2日は炭焼きの準備です。新しい行事、勉強会がどんどん計画されます。自分自身の生涯学習と思いぜひ参加され、自分の教養に活かしてください。

8. 編集後記

先般より宇部市市民活動フォーラムや桂谷主催、広島、山口里山フォーラムにさんかして思いました。「里山ビオトープ二俣瀬をつくる会」ボランティアの活動でただ作業をするだけでなく、この中で自分の生きがいを見つけ出しさらに人間関係を有効に見つけ出すことが大切ではないかと思いつくと思いました。

他のボランティア活動の機関紙をいろいろと頂きました。お金をたくさんつぎ込んだ立派なものや、手作りの連絡表みたいな簡素なもの等々を見てわれわれの会報もそれなりにできていることを確認しました。ただ原稿の寄稿者が固まっているようです。ぜひ全会員の投稿をお願いしたいものです。

(原田 満洲夫 記)